

審査を終えて

NPO法人日本こどもの安全教育総合研究所理事長 宮田 美恵子

小学生の部

令和七年（二〇二五年）の春・秋の全国交通安全運動では、「歩行者の安全確保」、「飲酒運転やながらスマホの根絶」、「自転車の交通ルールの遵守」等が重点として掲げられました。あわせて、自転車の交通安全教育の充実化に向けた官民連携協議会が策定した「自転車交通安全教育ガイドライン」に基づき、幼児から高齢者までの一貫教育を通じて、自転車教育の強化や安全・安心な利用を具体化する施策が推進されています。

こうした背景の中で、今回の小学生の応募作品には、横断歩道の渡り方や反射材の活用、ヘルメット着用、スマホ使用運転の危険性など、日常の気づきを基にしたテーマが多く見られました。子どもたちが生活の中で感じたことを素直に表し、自分や家族、地域の安全を考える姿勢が随所に示されており、交通安全教育の広がりを実感します。

「交通安全ファミリー作文コンクール」は、子どもたちが交通場面を振り返り、家族と安全を考える機会を大切にしています。普段何気なく使う道路に目を向けることで、ヒヤリとした体験や身近な事故、地域の見守り、家族の願いなど多くの気づきが生まれます。それらを言葉にする過程そのものが命を守る学びの時間です。今回も多くの子どもたちがこの機会を得られたことを嬉しく思うとともに、保護者、学校、地域の皆さまのご協力に深く感謝申し上げます。

最優秀作（内閣総理大臣賞）

◇愛媛県二年生・若狭早さん「頭のイナズマ」

事故の瞬間を擬音で立体的に描き出し、読者に衝撃と恐怖を直接体感させる表現力が圧倒的な評価を受けました。ヘルメットが命を守った事実を自身の経験から示し、日常の注意だけでは避けられない危険の存在を強い説得力で伝えていきます。思いがけない事故の現実を鋭く突きつけ、安全行動の重要性を深く刻み込む力をもつ秀逸な作品として高く称賛されました。

優秀作（国務大臣・国家公安委員会委員長賞）

◇埼玉県一年生・森永紗礼さん「とうげこうできをつけること」

登校班や一年生だけの下校、一人歩きで意識している点を具体的に述べ、緊張や不安を抱えながらも、班長や地域の見守りに支えられていることに気づいていきます。こうした経験を通して「自分のことは自分で守る」という意識が育っていく様子が、作品の大きな魅力として受け止められました。

◇大分県二年生・竹山明里さん「わたしが大きくなったらくさんの人をしあわせにしたい」

交通指導員として活動する両親の姿を見て、自らも共に活動するようになった経験を描いています。暑い日も活動を続ける両親への尊敬や、スマホ運転が減ったと感じる周囲の変化に気づく視点が印象的で、将来の願いへとつながる成長が高く評価されました。

◇大阪府三年生・中西広さん「やさしい横だん歩道」

視覚障害のある祖母の横断を助けた体験が出発点です。音声信号の違いを自分で調べ、祖母に伝えながら歩く姿に思いやりが表れています。誰にとっても安全な横断歩道を願う気持ちと主体的な学びが、選考の中で特に光りました。

◇ 群馬県四年生・尾内美玲さん「命を守るジュニアシート」

同年代の子どもの事故をきっかけに、体格に合わないシートベルトの危険性を理解した作品です。「ジュニアシートを早く卒業したい」という気持ちと母の願いを受け止めながら、安全装置の必要性を自分の言葉で伝えようとする姿勢が、説得力のあるメッセージとして評価されました。

◇ 鹿児島県五年生・浦来叶さん「お父さんと行く鶏ふん配達と交通安全」

父のトラックに同乗し、細い道や交差点での判断を体験的に学んだ内容です。運転席と歩行者の両方の視点に気づき、慣れた道でも注意を怠らない大切さを実感した点が、作品の価値を大きく高めています。

◇ 栃木県六年生・前野ちえりさん「登校班の問題児」

妹の危険な行動に悩む中で、母の助言から自分の伝え方を見直すようになった作品です。相手を変える前に自分の姿勢を整えることの大切さに気づき、思いやりをもって伝えることで班の雰囲気が変わっていく過程が、読後に深い余韻を残しました。

優秀作（文部科学大臣賞）

◇ 大阪府五年生・谷青葉さん「大切な人を思い浮かべて」

祖母の転倒事故を通して家族の痛みを自分のこととして受け止め、相手に寄り添いながら安全行動を促した姿勢が高く評価されました。ヘルメットを嫌がる祖母に丁寧に思いを伝え、家族の安全を願う気持ちを共有していく過程が温かく描かれています。また、自身の行動にも「大切な人を思い浮かべる」という視点を取り入れ、思いやりが安全意識を育むことを読者に自然に示した点が印象深い作品となりました。

佳作（警察庁交通局長賞）

◇宮崎県一年生・木村隼輔さん「こどもタヌキのこうつうじこ」

タヌキの事故を自分や弟に重ねて命の重さを考え、その思いを行動に移した点が印象的でした。弟の手を握り、存在を知らせようとした姿勢には家族への思いやりがにじみます。交通安全を自分の問題として捉えた点が高く評価されました。

◇福島県一年生・中里心花さん「あんぜんにあるく」

青信号でも確認を続ける必要性を体験から学び、子どもが見えにくい存在であることを理解した点がよく伝わります。家族に会えなくなるかもしれないという想像を通してルールの意味をつかんだ姿勢が認められました。

◇香川県一年生・山崎椋太さん「ぼくのとうこう」

母の不安の理由を知ったことで危険への理解が深まり、一人登校へ向けて心の準備を進める様子が丁寧に描かれています。周囲を見て立ち止まる習慣も身につき、成長と安全意識が結びついた点が評価の対象となりました。

◇茨城県二年生・染野心暖さん「かぞくでまもるこうつうあんぜん」

横断歩道での体験をきっかけに母の言葉を受け止め直し、家族で決めた約束を守ろうとする姿勢が印象に残ります。姉としての自覚が芽生え、家庭内で安全意識が広がる様子を描いた点が高く評価されました。

◇群馬県二年生・森川莉望さん「こうつうルールをまもろう」

旗振りの人の事故を目の前で見た衝撃から、交通事故の怖さを真剣に考えるようになった心の動きが伝わります。祖母が旗振りを引き継いだ出来事を通して地域の温かさに気づいた点が評価されました。

◇群馬県三年生・岩田博都さん「目線」

助手席からの景色を体験したことで、歩行者・自転車・運転者それぞれの立場や死角の存在に気づいた視点

の変化が際立っています。気づきを行動の見直しにつなげた点が認められました。

◇茨城県三年生・山中颯真さん「安心・安全は一人一人の心がけ」

事故のニュースをきっかけに通学路の工夫や地域の見守りに目を向け、安全を支える要素を整理した点が印象的です。弟に伝えようとする姿勢に責任感が感じられる作品として評価されました。

◇愛知県三年生・早稲田怜さん「私が増えたい者にならないために」

シミュレーター体験を通して見落としやスピードの危険性を理解し、身近な場所にも同じ条件が潜むと気づいた点がよく伝わります。加害者にならないよう行動を改めようとした姿勢が高く評価されました。

◇茨城県四年生・菊地優莉さん「ただいまを言えるしあわせ」

青信号でも車が止まるまで待つという母の教えを体験で確かめ、日常の「ただいま」の尊さに気づいた心の動きが温かく描かれています。安全と日常を結びつけた視点が評価のポイントとなりました。

◇石川県四年生・杉本彩樹さん「交通安全を人任せにしない」

歩道での危険な経験を通して、自分の行動が周囲の安全にも影響することを理解した点が印象的です。母の体験談を受け、安全を自分で守ろうとする意識を高めた姿勢が評価されました。

◇愛媛県四年生・村上央征さん「みんなで守ろう自分の命」

切手を追わず道路に出ない判断を母にほめられ、命を守る行動の価値を実感した様子が素直に描かれています。日常のあいさつの大切さに気づいた点が高く評価されました。

◇香川県五年生・亀井涼市さん「ぼくならだいじょうぶ」

兄の一言で事故を避けられた経験から、基本的な交通ルールの意味を改めて理解した姿が印象に残ります。命を守る行動を選ぼうとする意志が評価されました。

◇香川県五年生・間瀬羽海さん『ながらスマホ』について」

家族で「ながらスマホ」の危険性を共有し、互いに声をかけ合う習慣が生まれた点がよく伝わります。周囲にも目を向けて事故を防ごうとする意識が認められました。

◇福岡県六年生・手島琉生さん「交通ルールは命の約束」

毎年家族で通学路の危険箇所を確認し、ルールを見直す習慣を続けている点に安全への意識の高さが表れています。「命を守る方がカッコいい」という価値観を行動に結びつけた点が評価されました。

◇愛媛県六年生・藤渕悠文さん「命を守る心配性」

弟の飛び出しや自身の事故を振り返り、慎重に行動しようとする決意を言葉にした点が印象的です。青信号でも左右確認を徹底する姿勢が評価されました。

◇愛媛県六年生・柳瀬新奈さん「失敗から学ぶ防げる事故」

自転車事故を原因まで含めて振り返り、相手の思いやりに触れて責任を自覚した心の変化が丁寧に描かれています。失敗から学びを導き出した点が高く評価されました。

以上の受賞作からもわかるように、子どもたちは実体験や身近な人の出来事を通して、それぞれの発達段階に応じながら真剣に交通安全と向き合っていました。自分や周囲の安全を守ろうと意識を高めている姿は、大人にとっても大きな励ましとなるものです。これからも一つひとつの経験を大切に、事故に遭うことなく、子どもたちが健やかに成長していくことを心から願っています。

最後に、本コンクールは、多数の応募作品を丁寧に読み進めてくださった予備審査員の皆さま、事務局ならびに関係者の皆さまのご尽力により開催されました。本審査会において真摯かつ厳正な審査にあたってくださった審査員の皆さまにも、深くお礼を申し上げます。

令和7年度交通安全ファミリー作文コンクール審査員
— 小学生の部 —

(敬称略、順不同)

宮田美恵子	NPO法人日本こどもの安全教育総合研究所理事長
羽 藤 雄 次	足立区子どもの安全安心プロジェクトチームリーダー
山口祐美子	全国公立小・中学校女性校長会会長
入 谷 誠	一般財団法人全日本交通安全協会専務理事
幸 田 徳 之	一般財団法人日本交通安全教育普及協会専務理事
山 崎 律 子	内閣府政策統括官(共生・共助担当)付参事官(交通安全対策担当)
中 園 和 貴	文部科学省総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課長
井 澤 和 生	警察庁交通局交通企画課長